

小沢一郎政治塾に入塾しました



今年1月、小沢一郎政治塾に5期生として入塾しました。年二回の合宿のほか年数回の課題をこなし2年間で完了します。

合宿では小沢塾長も食事とともにし、自らの政治にかける思いを語ってくれました。「次期総選挙が私の最後のご奉公になるだろう。日本を立て直すため、すべてを擲って政権交代を実現する」。朴訥とした語り口ながら、すさまじい迫力を感じました。他に類のない真の政治家です。

中国は反日などやっている場合か

中国での反日デモはまたたく間に各地に広がり、日本の領事館や商店暴徒化した集団に襲われ日本人が暴行を受けた。こうした事態を中国政府は当初取り締まるどころか、黙認し事態を煽った。あのようなデモは中国では法律違反ではなかったか。国際ルールからも外国人の安全を守る責任が中国政府にあることは明らかなのに、日本の責任だといった。

実は中国では昨年から、貧富の格差や環境破壊が原因で地方の暴動が頻発している。日本の新聞ではなぜかほとんど報道されないが、その規模は重慶で5万人、四川省漢源県では15万人にもものぼる。黄巾の乱を思わせるものがある。そうした国民の不満のはけ口に他国を利用するなど言語道断だ。日本政府には冷静かつ毅然とした態度を貫いてもらいたい。

ご意見ご声援をよろしくお願いします！

TEL 042-335-0097 / FAX 042-361-9856

Email sugimura@sea.sannet.ne.jp

URL <http://www.fuchu21.gn.to/>

郵便振替 00150-1-102251

銀行口座 みずほ銀行府中支店 貯 4572242



府中市議会議員・民主党・府中の元気

杉村康之 / プロフィール

昭和44(1969)年2月19日生(36才)

日鋼町に育ち、現在栄町在住。府中一小、府中四中、国立高校、青学大卒。

その後日本新党の活動に参加、山田ひろし衆議院議員(現杉並区長)の公設秘書を経て、平成11年府中市議選に無所属で初挑戦。

平成15年府中市議選に自由党で初当選。民由合併を経て、現在民主党に所属。

府中一新、日本一新。

府中の元気

フリーダムネット

No.13 2005.4

少年犯罪 不登校 ニート...

子供たちに自信を
親と子の絆
ものを大切に

<暮らしはこう変わる>

- ◆ 旧保健所の建物を都から買入れ、医療センターの別館に。
- ◆ 大国魂神社交番脇に、観光拠点として観光情報センターが開設。
- ◆ 教頭先生は副校長に。この春から呼称が変わりました。
- ◆ 市のサイトに各種福祉サービスを案内する「福祉ナビゲーション」が開設。一部で電子申請も可能です。
- ◆ 「水と緑のネットワーク」基本計画を策定。健康センター、郷土の森周辺の緑道や水路を活用し、憩いの場をつくります。
- ◆ 将来の市庁舎建替えに備えて基金が新設されました。市議会の屋根が一部落ちました。市議会議員も命がけ？

子供たちをめぐる 痛ましい事件や問題行動について

2/23 本会議より

杉村 大阪の寝屋川で17歳の少年が教師を殺傷するという事件があった。ここ数年このような事件を度々聞かされるようになった。また、不登校やニート、リストカットなど様々な現象も問題になっている。今日の子供たちをめぐる痛ましい状況をどう考えるか。また府中の状況はどうか。

教育長 不登校やニートは今や学校だけでは解決し得ない社会的な問題であり成長過程における課題。リストカットなどの自傷行為は精神的な疾患による行動の一つであり、あわせて大きな問題と受け止めている。

学校教育部長 不登校は、小学校で18名、中学校で163名(平成15年度)。自殺、リストカットなどの事故についての報告はないが、児童・生徒間の暴力や出会い系サイトへのアクセスなどの問題の報告はある。

杉村 そういった問題について事後的な対応については充分されているようだが、問題の原因や発生予防についてはどうか。

学校教育部長 原因は多岐にわたるが、特徴として欲求本位、自己中心性、規範意識の無さ、内面的脆弱さ等が考えられる。(予防として)いのちを大切にす
心、思いやりの心、人間関係づくり、規範意識等を育成するよう指導していく。

杉村 原因は、一つには家庭のしつけの問題があると思う。また問題行動に発展し
ような状況にあるとき、最後の歯止めになるのは基本的な信頼感もてる関係があるかどうかだと思う。親子の絆を深める環境づくりが重要だが、学校としても今
まで以上に家庭に関わっていくことが必要ではないか。
内面的脆弱さは深刻で、子供が自信をもてる教育をぜひお願いしたい。

学校教育部長 家庭によっては非常にそれを嫌う家庭もあるが、保護者と充分相談し
た上で丁寧な家庭訪問をしていくことが重要だと思っている。

杉村 いのちの教育の基本はものを大切にす
る心だと思ふ。いのちの教育、ものを大切
に、ということをどのように教育されているか。また給食の残滓が18%出ている
とのことだが、残さずに食べるということをどのように指導されているのか。

学校教育部長 いのちを大切にすることは学校教育全体を貫く基本。ものにもいのち
があると受け止めて教育している。これまで以上にものを大切にす
るよう指導して
いく。給食の残滓はゼロにはできないが、食べ物に対する感謝の心を育み、
残さず食べることの指導をすることが大切。献立の開発も必要と思ふ。

杉村 嫌いなものを無理に食べさせるなどか、いじめの原因になるなどと苦情をいう親
があつて、給食指導がやりにくいという話を聞くが、それは本末転倒だ。ものを
粗末にするなどということを教えるのが大事。自信をもって親を説得して下さい。

戦後教育の総決算を、地域から。

私はこの一年間、文教委員会に所属し、一般質問でも4回にわたって教育をテーマに取り上げてきました。その理由は先ず、大切な宝である子供たちの人格形成にとって最良の環境をつくってやらなければならないこと。そして、府中を良くし日本を良くする根本は人づくりにあると思うからです。政治、行政、学校、企業、民間、あらゆる分野で、率先して「汗をかき」街を良くしていこうという元気な人材が一人でも多く生まれてくるのが、まちづくりには欠かせません。

過去3回の一般質問では、就学前児童の教育、学力調査、セカンドスクール(長期宿泊体験教育)、歴史教育、開かれた学校づくり(学校評価、情報公開、コミュニティスクール)について取り上げてきました。そして4回目の今回、子供たちを巻き込む大きな事件や日常的な不登校、ニートなど、昨今の子供たちをめぐる痛ましい不可解な状況について、市の認識を聞き、今私たちにできることは何かを探りました。

市の認識は、当然深刻に受け止めているとは言ふものの、不登校は「問題」ではなく「発達上の課題」であるとか、反対する親がいて給食指導が徹底できないとか、生ぬるい印象をもちました。原因追求、発生予防についても具体的な取り組みが見えません。問題を直視した上で、原因を追究し、具体的に対策を立て、一つ一つつぶしていく必要があるでしょう。

なぜ、「欲求本位、自己中心性、規範意識の無さ、内面的脆弱さ」なのか。社会環境の影響が当然背後にあるでしょうが、家庭の教育力低下と戦後教育の偏向が大きな原因だと私は考えています。そんな観点から、今回私からは、3つのポイントに絞って論点を出しました。

まず、子供が自信を持てる教育を。基礎基本の学力をしっかりと身につけ、様々なことを「体験」し、自らのルーツを学んで自分の立ち位置を安定させることが、子供の自信につながるでしょう。また、親子の絆が傷つけられやすい今日の社会環境にあつて、意識的に親子の絆を深め「基本的信頼感 = basic trust」を獲得させるような配慮も必要です。さらに「いのちの教育」の基本として、ものを大切に、特に食べ物を粗末にしないということを意識的に教えることが重要です。

戦後教育を総決算し、親のあり方、学校のあり方を身近な地域で根本的に見直す時期に来ていると実感しています。

